

製品名: CASP9 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82331**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	46.3kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP9
別名	MCH6; APAF3; APAF-3; PPP1R56; ICE-LAP6
遺伝子 ID	842.0
SwissProt ID	P55211
免疫原	大腸菌で発現したヒト CASP9 (AA: 331-416) の精製された組み換え断片。

背景

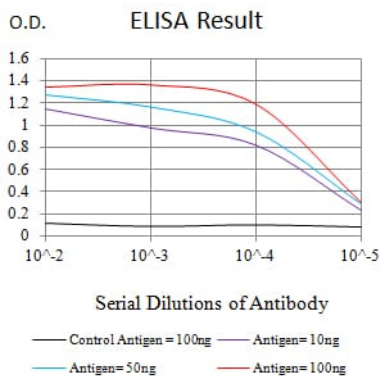
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードしています。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、

保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解を受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体を形成して活性酵素を形成します。このタンパク質は、シトクロム c とアポトーシスペプチダーゼ活性化因子 1 からなるタンパク質複合体であるアポトーシスソームによって自己タンパク質分解および活性化を受ける可能性があり、この段階はカスパーゼ活性化カスケードにおける最も初期の段階の一つと考えられています。このタンパク質はアポトーシスにおいて中心的な役割を果たし、腫瘍抑制因子であると考えられています。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2013年5月]

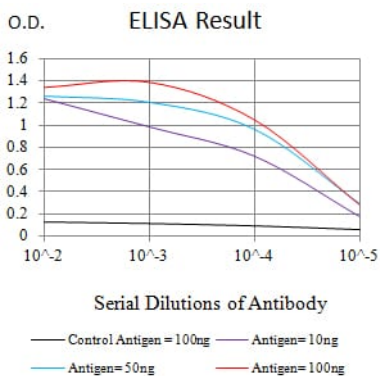
研究分野

アポトーシス、PI3K-Akt シグナル伝達経路

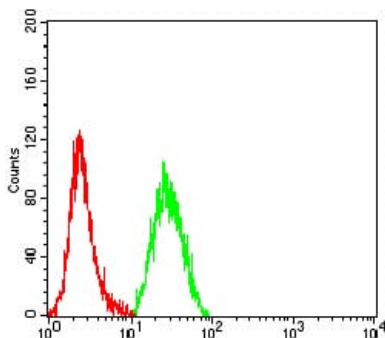
画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



CASP9 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Hela 細胞のフローサイトメトリー分析。